

令和3年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山東中学校
校長 足立 貞治

1 学校教育目標等

「つなぐ力を持ち、自ら考え判断し行動できる生徒の育成」
～創造（考えて）・挑戦（やってみて）・感動（次の意欲）～

2 今年度の重点目標

1. 確かな学力の育成
2. 安全安心な居場所づくりに向けた生徒指導
3. 地域とともにある学校づくり
4. 教職員の育成と学校業務改善

3 学校自己評価結果

（達成状況・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	活動（作業）、協働（ペア学習・グループ学習）、表現（発表）のある授業を意識して取り組んでいるか。	A	・協働学習の研究に取り組み、生徒にもペア・グループ学習が本校の授業スタンダードとして定着している。対話を通して考えを深め広げることができている。
	「めあて」を分かりやすく提示し、最後に「ふり返し」をして理解度をチェックしているか。	B	・自分から学ぼうとする主体性を育てながら家庭学習の充実にも努めているが、時間、内容が目標に至っていない。
	家庭学習の定着（時間・内容）に向けて指導しているか。	C	・基礎基本や学習習慣の定着を図るため木曜日の放課後等を利用して、タブレットドリルを活用するなど、できる限り個に応じたきめ細やかな指導を心がけた。
	休み時間、木曜日の放課後等を使って、個別の指導を行っているか。	B	
道徳教育	道徳の時間、生徒の考えや意見を大切にしたい心にせまる授業を心がけているか。	A	・「対話を通して生き方について考えを深める道徳科の授業」をテーマに、人権教育を生かした授業（対話）づくりに取り組んだ。その中で考えを深めるための「気付き」を大切にしたい。
	授業の中に「ふるさと丹波篠山」に関連のある題材を取り入れたか。	B	・市長の学校訪問で地方自治について学び、ふるさと教育に繋げた。長寿福祉課等、外部から講師を招聘し高齢者福祉について学び身近な高齢者との関わりを考えた。
生徒指導	欠席生徒、不登校傾向生徒に対して、生徒指導委員会、生徒支援委員会、ケース会議、学年会などで組織的に対応しているか。	A	・平常時の生徒指導の充実にも努めた。
	毎月の安全点検、交通立番、生徒への安全の啓発を確実にし、ケガや事故防止に努めているか。	A	・別室指導をはじめとする要支援生徒に対して学校として組織的に体制を整えた結果、欠席日数が激減した。
	情報機器の取り扱いについて指導をしているか。	B	・減災のための環境整備（ハードウェア、無線機の設置）県警コトラインについて動作確認をした。
家庭地域連携	学校だより、学級だより、保健だより、ホームページなどを通して、積極的な広報に努めているか。	B	・情報機器の取り扱いについては、生徒会を中心に情報機器の取り扱いについて家庭のルールの見直しをしているが、1年生でネット上のトラブルがあった。今後、学校と家庭が一体となり指導を継続する。
	コミュニティ・スクール事業によって、地域の方がより多く教育活動に参画されているか。	B	・コロナ禍のため保護者や地域住民による授業や行事の参観が十分でなかった。各種たより、HP更新等により広報活動に努めた。今後もHP更新は継続しながら啓発の方法も考えたい。
	小中交流会、小中研修会、出前授業、連絡会により、小中の情報交換が進んでいるか。	B	・授業時間確保のため交流会、連絡会、入学説明会等は規模を縮小して実施した。今後も目的やねらいを見直ししながら推進したい。
業務改善	ノー会議デー、ノー部活デー、定時退庁が進んでいるか。	B	・定時退庁の意識はあるが業務量が多く定時退庁できない。
			・コロナ禍で行事の目的等を見直しして行事の精選をしたので業務改善は進んだ。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- 重点目標は妥当である。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- 学校が目標として掲げられている「創造（考えて）・挑戦（やってみて）・感動（次の意欲）へ」をぜひ今後も継続して取り組んでほしい。
- あいさつが素晴らしい。学校へ行くたびに気持ちよさが伝わる。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	* 篠山東中学校の授業のスタイルとして教育活動全般で協働学習に取り組んでいるが、生徒たちがお互いの意見を交える姿がとてもよかった。
生徒指導	* 不登校生徒、欠席日数が減りつつある。今後も学校の組織としての対応を継続する。